



優秀賞

私の大切な心得

栗林 珠美様

「あなたに私の気持ちはわからないわよ」優しく微笑みながらその方は言いました。

私が介護職に就いたばかりの頃のお話です。当時私はご利用者様との会話の糸口を見つけるのに必死で、何でも「お気持ちわかります」と同調ばかりしていました。

ある日、勤務するデイサービスで92歳になる方のお隣に座りました。その方が「最近足腰も弱くなって、歳をとるって嫌よね。」と言われました。私は「お辛いですよね、お気持ちわかります。」といつものように返答しました。するとその方が微笑みながら「あら、あなたに私の気持ちはわからないわよ。だってあなたおいくつ?」「45歳です」と私は答えました。「じゃ尚更ね、だって私は92歳。戦前、戦中、戦後、とてもとても苦しい時代を生き抜いてきたのよ。必死で生き抜いて家庭を持って辛い事ばかりじゃなかったけど、子供達も独立し、主人も亡くなった。今は独りぼっちで死に向かって歩んでるの。身体も弱ってくるしね」私はハッとしました。その方がここまでどんな人生を歩んで来たのかもよく知らず、簡単に同調してしまった事に・・・私はうつむき、言葉を返せずにいました。そんな私に手を添えて「でもね、お互い様よ。だって私は45歳のあなたが今どんな苦勞をしているかわからないもの、だからお互い様」そう言って微笑んでくれました。

言葉の重み、優しさ、それぞれの歩んできた人生。介護職に就く者として大切な事を教えて頂きました。